



- 1) 日本頭痛学会代表理事 平田幸一先生よりご寄稿
- 2) HMSJ 2022 Web: Headache Master School Japan 2022 Spring Semester  
開催のお知らせ
- 3) 「頭痛診療に関心をもつ小児科医の集い (Japanese Headache Meeting of  
Pediatricians:JHP)」について
- 4) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介



## 1) 日本頭痛学会代表理事 平田幸一先生よりご寄稿



皆様明けましておめでとうございます。

会員の皆様には釈迦に説法ですが、頭痛はわが国だけではなく、世界的にも最も多い疾患の一つで、きわめて重要な症状・疾患であることは周知の事実です。しかし、一次性頭痛のなかで特に片頭痛はがんや認知症などの陰に隠れ、世間的にはその支障度の高さがあまり知られていません。慢性・難治化した頭痛に悩み、困り果てて来院するのが頭痛患者なのです。

1 次性頭痛のなかでも片頭痛患者さんは人口の8.4%との報告がありますが、片頭痛が多いのは20代から40代の働き盛り、しかもその世代の女性の5人に1人は片頭痛なのです。少子高齢化により働き手の確保が重要な課題であるわが国にあって若年女性を苛む片頭痛にどう対処していくかは、今後のわが国の存亡にも関与すると言っても過言ではありません。

1990年代の後半に多くの先進国で認可されたトリプタン製剤は2000年になり日本市場に上市されました。急性期治療薬であるトリプタンは片頭痛患者に多くの福音をもたらしましたがトリプタンがあまり有効でなかったり、併存症への投与が禁忌のため使用できない場合もあります。また、各種の片頭痛予防薬が開発され

たり、適応を拡げ投薬されてきましたがその効果は限定的と言わざるを得ませんでした。

しかし、抗 CGRP(calcitonin gene related peptide)抗体製剤薬による片頭痛発作抑制療法は画期的で従来のもとは一線を画す優れたものです。昨年4月以降に実用化された三つの新たな治療薬、すなわち「エムガルティ」と「アジヨビ」は CGRP 抗体製剤であり、「アイモビーグ」は、CGRP 受容体抗体ですが、そのどれもが驚異的な 50%, 75%, 100%反応率(頭痛日数の減少率)を誇っている一方、副作用は限定的なのです。また、新たな片頭痛急性期治療薬である選択的セロトニン 1F 受容体作動薬 Ditan 系治療薬「レイボー」も製造販売承認を取得しています。すなわち、現在患者さんにとりまく片頭痛診療の進歩は 4 半世紀に 1 度の大変革期を迎えていると言って過言ではないと思います。

この素晴らしい機会を捉えながら日本頭痛学会は次世代頭痛医療者を育成するための Headache Master School Japan(HMSJ)や、かつての患者会とは異なり学会が主体となり患者さん目線での会、頭痛患者の QOL を上げる Japanese Patient Advocacy Coalition (JPAC)などの事業のさらなる発展を進めてまいります。

日本頭痛学会員の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

日本頭痛学会代表理事

獨協医科大学 副学長

平田幸一

## 2) HMSJ 2022 Web: Headache Master School Japan 2022 Spring Semester 開催のお知らせ

新型コロナウイルスによる感染流行がまだ終息の目途がたたないことから、2022 年春の HMSJ も Web 開催となりました。本セミナー受講およびポストテスト合格で、専門医受験資格に必要な教育認定病院での診療歴の一部が認められます。また、専門医の先生方の受講では、更新のため生涯教育 10 単位が付与されます。

多くの先生方のご参加をお待ちしています。

開催日時:2022 年 6 月 19 日(土)9 時 00 分~16 時 45 分(予定)

参加受付:2022 年 3 月 18 日(金)~5 月 20 日(金) 締め切り厳守

実行委員長: 柴田 護 先生 (東京歯科大学市川総合病院 神経内科 教授・部長)

ホームページ: <http://hmsj2022-1.umin.jp> (2022 年 2 月開設予定)

開催のご案内:[https://www.jhsnet.net/pdf/HMSJ2022\\_SpringSemester.pdf](https://www.jhsnet.net/pdf/HMSJ2022_SpringSemester.pdf)

※受講申込みの詳細は、開催のご案内またはホームページをご参照ください。

### 3) 「頭痛診療に関心をもつ小児科医の集い (Japanese Headache Meeting of Pediatricians: JHP)」について

「頭痛診療に関心をもつ小児科医の集い(Japanese Headache Meeting of Pediatricians : JHP)は、2015年11月13日(第43回日本頭痛学会中)に第1回が開催され、以後定期的に活動を継続しています。このたび、これまでの活動の経過報告と趣意書が更新され、日本頭痛学会のホームページに掲載されました(<https://www.jhsnet.net/pdf/jhpshuisho.pdf>)。

ご興味のある先生はぜひご一読いただき、参加についてご検討ください。

参加資格:日本頭痛学会会員であり、日本小児科学会専門医、または今後小児科専門医取得を予定している  
医師

事務局連絡先:代表世話人 藤田 光江 先生 筑波学園病院医局(FAX 029-836-1590)

### 4) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介します

- 降雪視症候群に認められる視覚入力に対するコントラストゲインの異常

Brooks CJ, et al. Visual contrast perception in visual snow syndrome reveals abnormal neural gain but not neural noise. Brain 2021 Oct 11; awab383. doi:

10.1093/brain/awab383

掲載日:2021/11/4

- 前兆の既往のある片頭痛とない片頭痛に対するエレヌマブの安全性と有効性の比較

Ashina M, et al. Assessment of Erenumab safety and efficacy in patients with migraine with and without aura: A secondary analysis of randomized clinical trials. JAMA Neurol. 2021 Dec 20. doi: 10.1001/jamaneurol. 2021. 4678.

2021 Dec 20. doi: 10.1001/jamaneurol. 2021. 4678.

掲載日:2022/1/6

【日本頭痛学会 広報委員会】

ニュースレターに関するご意見、問い合わせは<[jhs-office@shunkosha.com](mailto:jhs-office@shunkosha.com)>までお願いいたします。